



こんにちは

村田 けい子

6月

議会報告

2021.7.2

No 307

夏号

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

移動事務所 090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

6月議会より



索道事業、指定管理者も応募できる。 総額2億6800万円超えの一大事業。 町負担は5372万円以上。今必要か？！



索道事業特別会計予算において、約2億7千万円におよぶ降雪マシン導入・ICゲート設置などの大型投資が予算化、可決されました。村田は反対しました。

反対の理由は

第1に、観光庁の補助制度に採択されず、2分の1補助が受けられなくなったのに、計画はそのまま。議員の質問で初めて「不採択」が明らかに。

2、指定管理者の提案のままに多数の降雪機導入などを予算化。町独自の検証・判断がないこと。

3、コロナで町の税収も、スキー客も落ち込んでいるときに今、巨額投資が必要か。スキー場オープンを早めるというが、立地条件からその効果が期待できるか疑問。

4、従来の発券システムの更新には1100万円。

今回の新システム導入には 約4700万円。しかもゲートの数が国際6機、2in1は8機設置予定。今必要か、緊急性はない。

5.降雪機製造は樫山工業が日本のシェアの大半を占めるということで、まさに巨大なビジネスチャンスを与えることとなります。競争入札といっても圧倒的に有利なのではないでしょうか。

委員からは「補助事業とならなかった報告がなぜ最初になされなかったのか」「だまし討ちのようなもの」との強い抗議がありましたが、結局委員会全員賛成で承認、本会議でも村田だけの反対で可決。

昨年11月より索道事業は指定管理者に一任され、以来、ゴンドラ料金の値上げ（町民は無料に）、御泉水駐車場有料化、平日のゴンドラ停止などが実施され、サービスは低下しています。働いている町民の労働環境も問題が指摘されています。加えて巨額の設備投資で、指定管理者優遇の政策が次々と打ち出されています。

町民負担は当初の倍。5400万円弱の巨費です。個人事業主への休業補償やPCR検査には背を向けていながら、指定管理者優遇の設備投資。事業の優先順位が違うと指摘し、反対しました。

しています。菊の茎に切れ目を入れ、それぞれの色水を吸い上げさせて染色したとのこと。根気のいる細かい作業でしょうに、見事に咲いています。貴重な菊3輪とせっかく咲いた白百合を惜しげもなく道の駅の窓辺に。東京発のコロナの感染爆発につながる恐れが指摘されているオリンピック開催は懸念されますが、虹色のお花は、世界中の人々の、平和への願いやあらゆる差別のないジェンダー平等の社会をもとめる象徴、レインボーフラッグのよう。世界への祈りのようです。

①国際スキー場と2in1スキー場に、最新式の降雪マシンを新たに固定式ファンタイプ14台、スティックタイプ33台を追加配置。(指定管理者からの提案のまま)

②最新機器大量導入で気温が高い状況(-0℃)でも雪を作りスキー場のオープン日を周辺より早くして、スキー客の誘客につなげる目的で計画された事業。11/20オープンを目指す。(従来は12/10)

③合わせてICゲートシステム(4600万円)を導入し、スキーヤーの動向を把握分析し、周辺への誘客を一体的に進めるとして計画されたもの。

(Eight Peaks Resort 国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業/7スキー場6事業者とが一体的に協力して誘客を目指す構想/補助率50%・観光庁)

* 辺地債・・・事業費を起債で手当てした時に、その80%が交付税として国から交付される制度。

町の公営企業時には、独立採算を基本とするので辺地債は利用できなかったとのこと。



オリンピック色 の花、窓辺に

「道の駅にオリンピックの花を生けたからご覧ください！」と女神の里の駅長さんからの

お知らせにさっそく伺うと、道の駅トイレの窓辺に何と7色に染められた菊が白百合と共に活けられていました。

駅長のお知り合いから「オリンピックにちなんで、色を染め分けた菊」をプレゼントされたとの事で青・黄・赤・緑・濃い紫と虹色に輝い



今週のパチリ

蓼科牛を どう守る？

搬送運賃不足分は町が負担。広域連合の補償は3年間 (10割、8割、6割)不足分は町が保証を！ 町「検討する」

今井健児議員の一般質問で、「蓼科牛を守る。町長の今後の考えは」のテーマで4月以降の蓼科牛の処理費について質問。その中で佐久広域連合の運搬費増額補填は3年間でしかも毎年引き下げることが明らかとなりました。激変緩和措置との立場をとっています。町は、運搬費については差額補填をすることを明言しました。また、この4月より運搬費が1,100円から1,980円へと値上げとなったことも明らかになり、その差額分についても「補填を検討する」としています。(6月7日産業振興課課長)

【佐久広域連合補償】

①牛一頭当たり運搬費増額分

松本・中野1,100円

②補填はR3,4,5の3年間

②諸経費高騰についての言及はなし。

＜処理費高騰8,000円増額！その詳細は不明＞

屠畜・解体費・冷蔵庫使用料など諸経費は佐久屠場より1頭当たり8千円も増額しているとの事だが、「その詳細が明確にならないために支援のしようがなく、補填はできない」。(町長)

農家の声を聴く場を設ける場をつくって！

「4月より早2か月が経過し、農家に説明し、懇談する場を設けるべきではないか」と質問。町は、まず生産者代表と会って町の姿勢を報告し、その後必要ならば生産者と懇談する旨、答えました。

J A佐久浅間は農家から牛を預かって運搬販売をしています。その経費について詳細を生産者に明らかにする責任と義務があります。町も「詳細が明らかになれば、何らかの支援を考えたい」とする姿勢を示しています。畜産部会をはじめとして、経費の詳細を明らかにして、支援に繋げる運動が必要です。また、広域連合に対しても支援の継続を求める運動や長野県として国産の畜産振興・食糧自給率向上の立場から県内にと畜場を整備してもらう運動も必要ではないでしょうか。

中山道線 新ルート(蓼科高校～医療センター) 大人200円・子ども100円に。10月から。

千曲バス(株)「中山道線」が9月末で廃止。新たに佐久市・立科町共同で「蓼科高校～岩村田高校～佐久医療センター」路線を千曲バスに運行委託することに。運賃200円(これまで910円)。

高速バスや貸し切りバスなどの収入で赤字を補填してきた中山道線もコロナ禍の乗客減でとうとう廃止が打ち出され、町はその代替路線を模索してきました。

佐久市が市内循環デマンドバスが200円であることから、市境から蓼科高校まで4.6kmなので、立科分も「200円の料金」が打ち出されました。

佐久市と立科町の運行距離や利用者数の平均から負担割合は68%対32%となり、「総経費-利用料」の費用をその割合で求めると 町負担は570万円(令和3年10月～令和4.3月まで)

蓼科高校や佐久市内の高校などへの通学通勤のため、朝夕のみの運行とする方向は決まりましたが、具体的なダイヤは未定。これまで白樺高原の子どもたちの小中高校への通学や、佐久市・上市市方面へのバス利用の通学費への補助制度を提案してきました、佐久市との共同により大幅な料金軽減が図られました。

しかし昼間は大幅に減便。その間はデマンドタクシー(電話で予約、玄関先から目的地まで)のような制度が必要です。求めています。

コロナ禍の経済対策。一律20万円 経営が落ち込んだ事業者も対象に。

コロナ感染症の収束が見込めない中、町は新たな給付金事業を始めましたが、私は町の指定した業種(飲食、宿泊、交通、レンタル、娯楽業)だけでなく、「厳しい経営が続いている業者も対象にすべき」と求めました。

町は「指定業種以外でも経営が著しく落ち込んでいる場合はその対象とすること」を明言。「令和1年度と比べ、2年度の確定申告で大きな落ち込みがあれば対象になる」と答えました。窓口は商工会。ぜひご利用ください。町民向け飲食などに使える商品券は、ようやく郵送開始。



保育園跡地の活用について

まちづくり創生会議での提言を受けて検討中

●旧千草保育園(土地・建物)・・・町民の憩い・交流の場、企業誘致など検討する。

●旧若草保育園...跡地の一部を記念公園として残してほしいとの要望有、滝神部落と協議中。企業誘致など。

●旧三つ葉保育園・・・宅地分譲または災害時に使用する場として

●旧茂田井保育園・・・町内にある福祉法人より一括購入の申し出があった。

「どうなる？私たちの足」

7月21日(水)13:30～立科町中央公民館

公共交通について、町職員から説明してもらい

佐久市・東御市からの報告を予定。意見交換も。

